中・大型二輪車用第三世代燃料ポンプモジュール

吉岡　浩*　山本一之**
光藤英雄*
坂井雄作*

Third Generation Fuel Pump Module for Middle & Large-sized Motorcycle

Hiroshi Yoshioka, Hideo Mitsudo, Yusaku Sakai, Kazuyuki Yamamoto

要　旨

二輪車では，排出ガス規制対応及び燃費向上によるCO_2排出削減のため，中・大型車を中心に電子制御燃料噴射システムの搭載が進んでいる。また，安全性や快適性といった商品性向上のために，電子制御製品の搭載数も増加傾向にある。このため，車重増加や充放電バランスの悪化が生じ，電装部品メーカーへの対応が求められている。

三菱電機では，この状況に適応できる小型・軽量で消費電流の低い中・大型二輪車用第三世代燃料ポンプモジュールを開発した。主な特長は，次のとおりである。

(1)　燃料ポンプ本体への新規開発“T35型燃料ポンプ”適用と，小型・軽量・低消費電流化

(2)　金属ブラケットの燃料貯留部品樹脂化と，支持部材との共用化による軽量化

(3)　燃料フィルタの濾材(ろざい)仕様の最適化と小型・軽量化

この結果，従来品に対して体積・質量ともに約30%減，消費電流35%減を達成した。

中・大型二輪車用第三世代燃料ポンプモジュール

燃料ポンプモジュールは車両の燃料タンク内部に設置され，エンジン作動中は常時燃料をエンジンに向けて圧送している。中・大型二輪車用第三世代燃料ポンプモジュールは，燃料ポンプ本体やモジュール構成部品装置の仕様改良によって，従来品に比べ大幅な小型・軽量化・低消費電流化を実現し，車両の排出ガス規制対応・燃費向上に貢献した。